

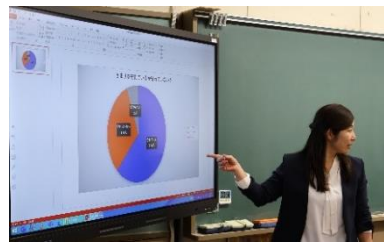


自己肯定感を高める授業をめざして

校内授業研究 道徳科 4年「雨のバスでいりゆう所で」 太田 佳愛 教諭
講師 山田 貞二 先生（岐阜聖徳学園大学 教授）



これまでの学習や生活経験から、様々な場面できまりを守ろうとする姿が見られる太田学級。廊下を走って運動場に向かったり、トイレのスリッパをそろえずに脱いでしまったりして、指摘を受けると不満そうな様子を見せる子供たち。きまりは大切な意識はあるものの、時に自己中心的な行動に対して、何のためにきまりがあるのか、相手や周りの人の立場に立って判断・行動しようと実践意欲を育みたい願いを込めて本時を設定しました。



初めに、「決まりが守れているか」のアンケート結果。守れていない（赤）10名（31%）などを提示。教科書を範読して、「どう思った？」と問いかけ、Yチャート（ボード）を活用して、①よし子、②母、③周りの人の視点でチームで意見を書き出しました。

その後、『書いてない』を付け加えて、「決まりについて考えよう」の学習課題を改めて確認し、再度、チームで話し合いを。そして、

●T1で一度立ち止まりました。C4「お母さんにも」、C5「自分がもし」と本文にもどり、登場人物や自分自身など様々な立場から、きまりを守る意味を考え、守る大切さを感じました。

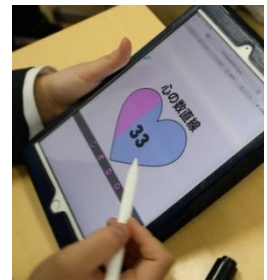
協議会では、Yチャートのよさや活用法、実生活の場に置き換える場で、写真を提示など具体的な考えを出し合い、手だての有効性を検証しました。講師の山田先生から、Yチャートで自分の



＜授業記録より一部抜粋、編集＞

- T1：守った方がいい？誰が決めるの？
- C2：自分で決めて、自分である程度のぐらいで。ある程度の気遣いするぐらいだったら、いいことしたなあって思って、相手もうれしい。やっといたほうがいい。
- C3：やっぱりこれ、決まりではないんだけど、守っておいたほうがいい。
- C4：守っておいたほうがいいっていうのは、お母さんにもつながるんだけど、こういうのを破っちゃうと、お母さんもこういうふうになってほしくないから、ちょっと怒って。
- C5：自分がもし並んで、抜かされたらいやな気持ちになるから、抜かさない方がいい。
- C6（つぶやき）：自分で考えたほうがいい。守った方が。何かマナーみたいな。
- C7：C4に似てるんですけど、**大人になっても**それやってたら恥ずかしい。
- T8：みんなの中で、書いてないけど何か決まりがあるって何となくわかる？
- C9（つぶやき）：わかる。

考えを本音でより拡散させること、弱い部分を表出させるために「心の数直線」（右）の活用を、チーム学習と個、全体交流の使い分け、さらに授業づくりとして、『多面的な発問』（発火点・拡散）→『多角的な発問』（ズレ・収束）で特に投影的（自分だったら）、批判的（〇〇だったらどう思う）によって読み取り→考え議論する道徳へ。



開始まもなく、「そんなに怒るかなあ」とつぶやきが。よし子に共感しています。C7はチャンス。「だったら、子供なら許されるの？」と私なら。みんなが気持ちよく生活すると、どんな良さがあるか考え始めましたよ。

